

中学 2 年 4 組 英語科学習指導案

指導者 鎌 田 真 由 美

1 単元名 日本文化の魅力を伝えよう ～Unit 6 *Rakugo* in English～

2 単元のねらい

英語落語などの工夫を参考にし、日本文化の魅力を海外の人にわかりやすく伝えることができる。

3 授業の構想

(1) 本学校園英語科では、子どもに備えさせたい資質・能力を、「知っている語彙や表現を活用して、聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えを話したり書いたりするコミュニケーション能力」ととらえている。また、その能力を支えるものとして、「相手意識・目的意識をもって、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」が不可欠だと考えている。以下に示すふりかえりは、1学期の英語学習「Unit 2 週末などの予定について対話しよう」において、単元のまとめとして振り返ったものであり、上記で述べたような資質・能力と関わる記述が見られる。

ペアで話すのは、何も打ち合わせをせずにするものだったのでとても難しかったです。でも、今まで習ってきた表現を活用して質問を考えたり、答えたりできたのでよかったです。

(生徒 A)

この単元を通して、英語で人と話すことが楽しいと感じることができました。英語の文法はメチャクチャだったけれど、手とかを使って会話を楽しみながら、話すことができました。でも、助け船を出すことができず心残りに思いました。優しい心で会話していきたいです。

(生徒 B)

このような記述から、自分の考えを即興的に話すことの難しさを感じつつも、何とか知っている語彙や表現を活用して伝えようとする姿勢がうかがえる。また、そのような姿勢をもとに、互いの考えをやり取りすることの楽しさを感じつつある。そこで本単元の学習を通して、自分が伝えたい内容が伝わっているか確認しながら話すなど、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てたいと考えている。

本単元では、日本文化の一つである落語が題材に取り上げられている。対話の中で、落語は手ぬぐいとせんすを効果的に用いて場面の様子を表現することが説明されている。また、落語の魅力を世界に伝えるために、小話の中に出てくる日本のものや地名を、現地の人にとってわかりやすくかえるエピソードも紹介されている。そのため、何かをわかりやすく伝えるための工夫や、異なる文化的背景をもつ相手とのコミュニケーションについて考えるのに適した単元といえる。このような単元の学習指導を通して、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする態度をもとに、知っている語彙や表現を活用して考えをわかりやすく伝える力を育てることができると考える。

(2) 本単元では、英語落語などの工夫を参考にし、日本文化の魅力を海外の人にわかりやすく伝えることを目標とした。この目標に到達するための学習過程において、英語科で目指す資質・能力を身に付けるために、次の3点を指導のポイントとする。

① 相手意識や目的意識が明確になる単元構想の工夫

本学校園で12月に行われるEnglish Dayにおいて、海外からのゲストに落語や俳句などの日本文化についてプレゼンテーションすることを、単元の目標の活動とする。教科書の本文の内容を理解する際にも、日本文化を紹介する際の工夫としてどのようなことが考えられるかという視点で聞いたり読んだりできるように支援を行いたい。

② 既習事項を用いて「その場で考えて話す」活動の設定

単元の目標となる活動においては、一方的な発表に終始するのではなく、ゲストとの対話も取り入れることで、単元の目標に迫れるようにしたい。対話においては、即興的に相手の質問に答えたり、相手の理解を確かめたりする必要がある。そのため、日本の文化などその場で示されたトピックについてペアで対話する活動を、帯活動として取り入れたい。

③ 主体的な学びにつなげる見通しとふりかえりの工夫

単元の最初に目標を示し、そのためにどのような表現や工夫を学びたいか考えさせる。そして、使えそうな表現や工夫を授業の中で随時メモできるふりかえりカードを活用できるようにする。単元の学習が進むにつれて目標の達成に近づいていることを実感させたり、分かったことや分からなかったことを明確にしたりしていくことで、生徒が主体的に学べる学習にすることができると考える。

4 展開計画（全10時間 本時3/10）

時	主な学習と具体的な学習・内容	◇願う子どもの姿
1	○単元のゴールについて知る。 ・S.Oを読んだり落語の映像を視聴したりして、落語について知る。 ・落語など、日本文化の魅力を海外の人に伝えるためには、どのような表現や工夫が必要か考える。	◇日本文化の魅力を伝えるための工夫や表現について、自分なりの課題意識をもっている姿
2・③	○日本文化について説明するための表現や工夫を、本文から学ぶ。 ・There is(are)～.の表現を練習する。 ・Dialogの内容を理解し、落語で使われるジェスチャーなどの工夫について知る。 ・相手の理解を確かめるなど工夫しながら話す。	◇日本文化について説明する際に、相手の理解を確かめるなど工夫しながら話している姿
4・5・6	○落語を海外の人に理解してもらうための工夫について知る。 ・動名詞の表現を練習する。 ・英語落語を聞き、内容を理解する。 ・日本のものを海外の人にわかりやすく伝えるための工夫について読み取る。	◇日本文化の魅力を海外の人に理解してもらうための工夫や表現について、本文から探そうとしている姿 ◇日本文化の魅力を伝えるため

7・8	○自分が紹介したい日本文化を選び、これまで学んだ表現や工夫をいかして、プレゼンテーションする準備をする。	に、これまで学んだ表現や工夫をいかそうとしている姿（例：There is(are)～. を用いた表現による導入，物を用いたジェスチャー，相手が知らないであろう言葉の言い換え，相手とのやり取り） ◇日本文化の魅力を伝えるために、これまで学んだ表現や工夫をいかして、プレゼンテーションしている姿
9	○クラスでプレゼンテーションのリハーサルをする。 ・グループで発表し，相互評価する。 ・他グループからもらった評価をいかして，内容を修正する。	
10	○English Day において，海外からのゲストに日本文化について紹介する。	

5 本時の学習

(1) ねらい

日本文化の魅力をわかりやすく伝えるために，工夫しながら話すことができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
1. 日本文化クイズをペアで行う。 2. Dialog を読み，内容を理解する。 3. Dialog 中の光太の説明を，より相手にわかりやすく伝えるためにはどうすればよいかペアで考え，発表する。 ・“Do you know about Japanese cushions?” “I’ ll show you some of the gestures.”	・生徒の発話から，あとの活動で使えそうな表現を取り上げて紹介する。 ・読む前に，落語とはどのようなものかを口頭で確認し，内容を理解するための支援を行う。 ・アレックスのような海外から来た相手に説明する際には，どのような補足が必要かという視点を与える。また，落語以外のものをとり上げて，海外から来た相手にわかりやすく説明する例を示し，考えるための手立てとする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 日本文化の魅力をわかりやすく伝えるために，工夫しながら話そう </div>	
4. 3の工夫を活用して，日本文化についてペアで紹介し合う。 5. 本時を振り返る。 ・English Day で日本文化について紹介する際に，相手の理解を確かめるなど工夫して話したい。 ・“Do you know about Japanese ～?” などの表現が使えるな。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（外国語表現の能力）</p> <p>日本文化の魅力をわかりやすく伝えるために，相手の理解を確かめるなど工夫しながら話している。</p> <p>【評価方法 活動の観察】</p> <p>※本時の評価は，単元目標到達のための形成的評価とする。総括的評価として，後日リハーサルと English Day においてパフォーマンス評価を行う。</p> </div>

